



## 6 発生生態

- 1) 本病の発生生態についての詳細は不明であるが、発病葉に形成された分生子により伝染すると考えられる。
- 2) 感染から2～4週間で発病すると推察される。
- 3) 夏期の高温期を除き、春から秋まで多湿条件下で多発する。



写真3 病斑の拡大（分生子座）



写真4 分生子

## 7 防除対策

- 1) 多湿条件下で発生が助長されるため、施設内の換気に努める。
- 2) 罹病株の残渣は伝染源となるため、施設外に持ち出し、適切に処分する。
- 3) 薬剤による防除は、発生してからでは手遅れになることもあるため（感染から2～4週間で発病すると推察される）、発生前から10～14日間隔で行う（表1）。ただし、薬剤の汚れが発生するため、使用時期には注意する。
- 4) 発生を認めた場合は、発病葉を除去してから薬剤防除を行う。
- 5) 2度切り栽培において、前年に発病した場合には、多発生することが懸念されるため特に注意する。

表1 斑点病（花き類・観葉植物）に登録のある薬剤（平成30年7月末現在）

農薬名	使用時期	希釈倍率	使用回数	使用方法
ダコニール1000	—	1000倍	6回以内	散布

## 8 その他

疑わしい症状が発生している場合は、島根県病害虫防除所（農業技術センター 病虫科：0853-22-6772）に連絡する。